



発行：チボリ国際里親の会事務局編集部
 事務局：〒110-0016 東京都台東区台東1丁目25-16 大熊ビル205
 TEL.03-3835-1545 FAX.03-3835-1546 IPTEL.050-1371-1541
 URL：http://www.jofpa.org E-mail：jofpa-tokyo@jofpa.org

- 1 ……第30回総会の報告
- 2～3 …SCMSI/JOFPA合同会議
- 4 ……大阪会場の報告記
山口・会員との交流会
- 5 ……チボリとの交流会 東京での模様
日本訪問感想
- 6 ……理事を終えて
3人が我が家にホームステイ！
- 7 ……30年の歴史の推移に遭遇して
美しきアジアのしごと 染織りと工芸展
- 8 ……会員のひろば/事務局便り

学校に行けないフィリピンの少数民族(チボリ族)の子どもたちを精神里親制度で支援しています

第30回総会の報告

6月19日(土)台東区生涯学習センターで第30回総会が開催されました。

総会に先立ち南昌宏会長の挨拶があり、続いて楠元直美兵庫支部長を議長に選出して開会しました。総会の出席者は15名、委任状提出者242名、計257名で規約による定数を満たし総会は成立しました。

平成21年度の活動報告および収支報告は、南会長からあり、支援事業及びその他の活動の実施状況が報告されました。本年度の事業収支は、会費や寄付金の減少にともない150万円ほど赤字になりました。

坂詰美代子監事より監査報告を頂いたのち、平成21年度の活動報告および収支報告は承認されました。

続いて、新理事の選出に入り、吉永洋子選挙管理委員から理事候補者の信任投票結果が報告され承認されました。

有効投票数 227票

南 昌宏 218票	鬼村 信行 211票
小林 知津 213票	河原 紀夫 216票
大須賀育代 216票	

会 長	南 昌宏
副会長	鬼村 信行
事務局担当理事	河原 紀夫
広報担当理事	小林 知津
広報担当理事	大須賀育代

大須賀育代監査役が今期より理事に承認されました。それに伴う後任の監査役には、吉永洋子さん(東京)が推薦されて、承認されました。

平成22年度の活動計画および予算が説明され、本年度6月に締結の3カ年の支援契約に基づく支援事業およびSCMSIとの合同会議・交流会の開催(5

月24～27日)、今後の当会の活動の再検討の実施、横浜高島屋の「美しきアジアのしごと 染織りと工芸展」(7月21～26日)への参加出店などの活動計画の実施と、今後3カ年の収支予想に基づく予算が報告され承認されました。

(単位：千円)

予 測	平成22年	平成23年	平成24年
収 入	13,500	12,300	11,100
支 出	15,595	14,500	13,500
差引計(*)	△2,095	△2,200	△2,400

(*)前年度の繰越金から補充されます。

総会終了後、南会長よりSCMSIとの合同会議と3カ年の支援契約書および覚書の締結の報告があり、引き続き大阪の小林理事、山口の山田伊津子支部長、千葉の橋本あき広支部長からそれぞれ、SCMSIとの交流会の報告がありました。

また、横浜の山崎登美子さんから6月にチボリに立ち寄られた時の様子は「現地の女性たちが確実に自立してきているとともに、SCMSIの卒業生が就職できるようになっています。しかし、山奥に住んでいる子どもには支援の必要性を感じました」との報告を受けました。(文責：理事 河原紀夫)



役員の出欠がなかなか決まらなかった総会

SCMSI/JOFPA 合同会議



会議内容

日時：2010年5月24日 9時半～16時半
場所：大阪国際交流センター
出席者：SCMSI マリア・ガンダム理事長
ダニロ・アバン学部長
ジョッサニ・パスター大学奨学生
JOFA 南昌宏会長 鬼村信行副会長
石渡浩子理事 小林知津理事
正垣恵津子(通訳) 関根千恵子(事務局)



会議発言要旨の対比



1 この30年間で支援を受けて成長した子がチボリの社会にどう役立っているか？

役所の約70%の
人材がSCMSIの
卒業生である。



教師となりチボリ族の
教育プログラムに大き
く影響を与えている。

貧困や無知から脱し、
未来への明るい希望と職を得ることができた。

総括

SCMSI/JOFPA合同会議を終えて

会長 南昌宏

かねてより準備を進めていたSCMSI/JOFPA合同会議が、5月24日に大阪で開催されました。

合同会議では、現地の3人の言動と姿を目の当たりにし、チボリにはすばらしい人材が育っていることを実感することができました。さらに、教育が広く行き渡れば、チボリ社会の自助努力が高まるのは間違いないでしょう。

また、彼らはより高く広範囲な計画を持参し、支援を願い出ています。逆に、何をもって「自立」と見るかの線引きができないまま、本会会員は減少し、これからの3年間のことを真剣に考えなければならぬ状況にあります。

ここに合同会議についてご報告するとともに、この報告を参考に、今後、会の方向性を現地の皆さんと共に見つけたいと思います。

5泊6日の日程で、大阪・山口・東京を会場に、会員との温かい交流もできました。それぞれで、たくさんの方々のお力添えをいただくことができ、心よりお礼を申し上げます。

3人が里親の心と感動を胸に帰国された旨の礼状が、ガンダムさんから届きましたこともご報告いたします。



2 会員減が続くと、支援は数年でできなくなることを知ってほしい。3年の契約期間内に自立の道を見つけてほしいので、両者の方向を明らかにしたい。

学校収入を増やすための授業料の値上げを検討する。施設や職員研修の質を向上させ、教育の質の高さで子どもを確保する。

支援金は、子どもたちの学校教育や教職員(190名)の給与となり、施設設備までには手が届かないため、政府の補助金申請の要件を満たさない。

個人的寄付(施設設備)を頼めないだろうか。施設設備の充実にJOFAの支援が欲しい。



会員減はSCMSIに努力せよとの警告と受けとめている。3年で支援が終わるとは考えたくない。JOFAの会員が増えるような対策を考え、支援契約をお願いしたい。

民芸品の販売や文化交流で、チボリへの関心を高めたい。



3 JOFAの支援に頼るとい受身からの脱却を目指すためには、どのような方法があるかを聞かせてほしい。

湖の漁により現金収入を得る教育。

《表記について》

- 1) 双方の考え方・姿勢・方向性を検証しやすくするため、対比できるように整理した。
- 2) さまざまな話題の中の発言内容を、質問ごとに分類整理したが、問いに対する直接の回答になっていない内容や、かみ合わない表現もある。
- 3) 理事会から事前に質問したことへの、文書回答の内容も含めている。
- 4) 本会の支援趣旨の範囲外と思われる内容は省略した。



大坂での合同会議

1. 本会は、子どもたちの就学支援を目的にしているので、SCMSIは辺地や貧困の未就学児童の救済に努力してほしい。
2. 里親としては、支援の成果がどんなところに出ているのかを知りたいので、SCMSIは住民や子ども、先生の声をしっかり伝えてほしい。
3. JOFPAとSCMSIは金銭や物に頼らない、心の絆を深める関係へ発展させたい。
4. 他のNGOに支援を求めるにしても、JOFPAに頼るのではなく、SCMSI自らが行動して支援を獲得してほしい。
5. 再契約した3年の期間内に両者のあり方や方向性を模索しつつ、より良い未来を築きましょう。

4 JOFPA

本会の目的は学校経営を援助することではなく、チボリの子どもに初等教育を授けることである。現在、未就学の児童はどのくらいいるのか？

SCMSI

SCMSIは、未就学地域に教師を家庭訪問させ生活状況を知り、子どもが就学できるように努めている。

先住民族の教育推進に、非チボリ族も受け入れている。辺地やお金のない子弟にも、午前午後と2部授業制にして全ての子が教育を受けられるように努力している。

子どもが学校に行けない最大の理由は貧困。食べ物と保健医療が不十分なため、病気になりがちや、家族の手伝いのために学校をやめる。

5 JOFPA

人材の育成によって、地域社会や日本への貢献もできるはず。SCMSIとJOFPAが、相互扶助の関係へと発展していくことが考えられないか？

SCMSI

お互いの願いは扶助共生できるようになること。

若い世代に会員になってもらい、次世代でできることを探したい。

今後、学校や各団体との交流やネットワーク作りが考えられる。

将来は日本とフィリピンの人々の生き方を理解し合う、学生教師の交流事業が考えられる。

SCMSI

政府や親からの寄付増加をめざし、学校給食維持のために根菜類を栽培している。

奨学生に対し、現地や海外からの支援者を増やしたいと思っている。

親に工芸品の技術研修をし、寄付能力を上げる。

教育レベルを上げ教育への関心を高め、生徒増を図る努力をしたい。

国内企業と学校がタイアップする事業をし、寄付品を受けている。日本の他のNGOにも協力を要請する道を開拓したい。



お土産のボールで遊ぶ子どもたち

平成22年度合同会議・交流会経費報告

科目及び明細	予算(円)	経費(円)
航空運賃・保険・ビザ取得手数料	293,602	252,295
宿泊費・食事代(ホテル4泊、ホームステイ2泊)	90,000	98,860
国内移動交通費(大阪・山口・東京への移動)	170,000	201,110
会議費(合同会議・交流会山口・東京)	17,000	17,522
東京半日観光(はとバス5,000×4名)	20,000	20,000
その他(お土産サッカーボール、合同会議通訳お礼)	20,000	14,100
合計	610,602	603,887

お盆を代用した楽器の舞踊に、拍手喝采!!

JOFPA招聘の3人は、来日直後の翌朝からの「合同会議」に臨み、緊張感を滲ませたままの様子で会場入りされていました。しかし、身振り手振りを混えながらの会話を弾ませている内に、初来日の若者たちの緊張感も解きほぐれていった様です。

2人は、民族衣装に着替えてジョッサニさんが“女踊り”を、ダニロさんが“闘う男踊り”を披露してくれました。その時のハプニングです。駆け足の行程だったので、踊りの調子を取る太鼓を宿舎に置いたままで会場入りしてしまい、急遽、太鼓の代用になる物を探しました。そして、マリア・ガンダムさんは卓上にあった木製のお盆の裏を代用の太鼓にすることにし、彼女がリズム打って2人の若者が踊ってくれました。

お盆の楽器の♪タンタン タタタン♪と打つリズムに併せて、衣装に付けられた鈴の♪シャンシャン♪と涼やかな音が場内に響くチボリダンスを鑑賞していると、参加者全員がチボリ村に居るような気分になり、我々のすぐそばに、チボリの子どもたちがいるような気がしました。そんな雰囲気の中でリク

エストされた“モンキーダンス”をダニロさんが踊ってくれました。この踊りはチボリ族の子どもの舞踊なので、成長した男性が踊ることは少し恥ずかしいのだそうですが、彼はお猿さんに変身したかのような仕草のモンキー踊りを披露してくれました。拍手喝采!!

大阪会場は、交流可能な時間が短時間しか取れなかったもので、実行委員会会議を開く度に、みんなで知恵を出し合い、様々な案件を会場（楓林閣）で協議して検討をかさねました。それ故に交流会の幕が降ろされた時には、吉岡実行委員長さんを始めとした実行委員と、ご協力を頂いた方々全員の顔は安堵感と重なった満面の笑顔で輝いていました。



ようこそ日本へ 関空にて

■大阪会場の実行委員

吉岡良治 井上八千代 宇都宮登史子
 齋田久美子 楠元直美 南井直之（通訳）

■報告者：小林知津

山口・会員との交流会 山口支部長 山田伊津子

山口県では2カ所で交流会が行われました。午後2時から、全校で里親活動（里子1人を全校で支援）を続けている県立華稜高等学校で、生徒、教職員、保護者約400人が体育館に集まり、生徒会が企画した「国際理解教育」プログラムで90分間、現地からの報告や両国の文化交流を楽しむことができました。

午後4時半からは徳山駅前のホテルに会場を移し、県内の会員、ジョッサニ・パスターさんの里親の石田節子さん（広島県）、卒業研修旅行（矢野基金）を設けられた矢野憲作さん（香川県）ら、15人が集まって交流会が行われました。



カモンナム・サドゥ

石田さんは「里親になってまだ4年くらいなのに里子に会う機会が持てて幸せだ」と感激しておられ、里子もとてもうれしそうでした。

それぞれの自己紹介後、矢野さんから「今年95歳になった。生きている限り卒業旅行の支援を続けたい」との話がありました。

チボリの3人は、ダンスや歌を紹介し、里親に民族衣装を着てもらって一緒にダンスを興じる交流会となりました。

山口県在住のフィリピン人コミュニティ会員の前田アラセリさんが友人と参加し通訳も引き受けてくださいました。

夜は、華稜高校の生徒会役員がジョッサニ・パスターさんを夕食会に招き、日本料理で食文化と友情を深め、生徒宅へホームステイしました。

翌朝は、ホームステイ先から生徒と一緒に華稜高校で英語の授業に参加した後、ガンダムさんの宿泊宅に3人が集まって、茶道や書道の体験をすることができました。



上手に書けたかな～



32名の歓迎の出迎えを受けてマリア・ガンダムさんから、チボリの現状について次のような説明(概略)がありました。

★私たち祖先は主に狩猟で生活していた。農業の改良・植林・3つの湖でのテラピアの養魚など支援をいただいた。

★伝統工芸であるティナラク織りの推進・縫製(ミシン)・木工・建築技術の研修・家畜飼育などの支援があった。

★以前は病気になっても経済的に病院へ行けなかったが、今は家族で行けるようになった。

★教育は初等だけだったものを大学まで学べるようにしていただき、就職先では重要ポストで活躍している。

★一部しか話せなかったが、このほか30年にわたって数多い支援をいただいた。おかげで30年前に比べると非常に良くなっているが、まだまだ貧困ラインを脱却できないでいる人々がたくさんいるので、今後も今までと変わらぬ支援をお願いしたい。



チボリダンスを披露



初めての電車体験

私がマイダキヨコさんの教育里子であったことは大変幸運なことでした。現在、私はSCMSIのカレッジの教員で学部長を務めていますが、今の私があるのは真にマイダさんと寛大なJOFPA会員のおかげです。

今回は思いがけなく初めて外国旅行の機会に恵まれ、夢にも思わなかった日本へ楽しい旅をさせていただいたことを非常に光栄に思います。初めてお箸を使ったこと、東京ではこれまで写真だけで見ていた歴史名所や東京タワーをツアーで実際に訪れたことなど、日本訪問は私の人生で忘れ得ぬ経験となりました。

日本ではこの他にも深い印象を受けました。チボリ文化に一脈相通じるものがある茶道、日本人の規律正しさと勤勉さ、日本人の温かいもてなし

対話交流

- Q1 小学校の就学率はどれくらいか?
Q2 学校発足当初と今で親の教育意識に変化があるか?
Q3 いまだにドロップアウトする子がいるが何故か?
Q4 大学卒業者の就職先はどこか?

A1~4

就学率は約70%超。親の教育意識はあるが、就学率に反映されていない。なぜなら経済的、地理的、保育設備的条件や家事労働支援などから学校に行かせられないでいる。ドロップアウトも同じです。

大卒者の就職先は教師・看護師・自治体職員・エンジニア・観光業・果樹栽培・輸出等で、勤務態度も良く評判がいい。

意見・要望等

- ①30年間の中で初等教育のみから大学までに高めたことは、レイクセブ発展に寄与しており、非常にいいことである。
②JOFPAからの支援がなくなったら困る人がたくさんでしまう。ボランティアは長くやったから終わりというものではない。ボランティアには心身の健全性が必要である。

日本訪問感想

ダニロ・アバン SCMSIカレッジ学部長

親愛なるJOFPA

私がマイダキヨコさんの教育里子であったことは大変幸運なことでした。現在、私はSCMSIのカ

レッジの教員で学部長を務めていますが、今の私があるのは真にマイダさんと寛大なJOFPA会員のおかげです。

の心、美味しい食べ物、そして日本での全ての経験がとても大きな意味を持っており、決して忘れることはありません。
私たちを心から歓迎し、宿泊を提供して下さった久保さんと大須賀さん、そしてご家族の方々、日本滞在中には本当に多くの皆様にお世話になりました。大須賀さんの家で泊まった時には、古い日本刀を実際に手に持たせていただき、映画でしか見たことのない日本刀を実体験しました。私たちを温かく迎え入れて下さったJOFPAの皆さん、メディアに生中継を要請された華稜高校の生徒、先生、職員の方々、そして、私たちに協力して下さいました他の方々。全ての方々に私の尽きせぬ感謝の気持ちをお伝えします。

事務局より

里親の“マイダキヨコさん”はすでに退会され、連絡先がわかりません。どなたかご存知でしたら事務局までご一報いただければ幸いです。

理事を終えて

前理事 石渡浩子

4年間の理事のお勤めを終えほっとしています。会の今後をどうするかを考えることになり、現地からガンダム代表、元里子のカレッジ学部長、現大学奨学生を招聘しました。

滞在中、大阪で理事との合同会議や会員との交流会（大阪・山口・東京）で話し合いがもたれました。

私たちの30年の支援の成果は、現地の役所の職員の70%がSCMSIの卒業生だったり、昔は外の部族に馬鹿にされていたが、今はリーダー的な存在になっているなどのうれしい報告がありました。

以前、日本からの支援は学校運営の70%だったのが、今は38%になっているので、もう3年で終わるといっても何とかできるでしょう。会員のみんなが一度にやめるのもなかなかできないことで、この会を



思い出の国立の事務所にて
(ご本人・ハヤテ・ご主人)

生きがいにしている方や子どもが大学を終るまでなど色々な方がおられるので、集まったお金を送って援助するような形で終わるのも良いでしょう。

私も何度か現地に行き、あの涼しいミンダナオの山の中を懐かしく思い出します。純真な子どもたちが私語ひとつない授業態度を日本の子どもたちに見せてやりたいと思いました。

私が事務局を引き受けた5年間はとても大変でしたし、至らなかったと思いますが、やさしい方々にお手伝いをいただき楽しくやらせていただきました。私も最後まで見守って行きたいと思っています。

事務局まで電車で片道2時間の遠い道のりを、杖をついて、そして、事務局の急な階段もなんのその、いつも笑顔を見せてくださいました。

そして、ある日こんなお言葉を。「2年後には、今住んでいる千葉県から東京に引っ越す予定なので、そのときは事務局を手伝えるよ！」。

石渡さんのチボリを思う情熱に感動しております！4年間本当にありがとうございました。そして、今後もどうぞよろしくご指導下さい。（事務局）

3人が我が家にホームスティ！

理事 大須賀育代

「カモンナム・サドゥ」羽田空港から、河原さん（現理事）が3人を伴って、26日午後5時過ぎ、我が家に現れました。賓客は、よほど喉が渇いていたのか冷たい水を2～3杯一気に飲んでホッとしていました。慣れない日本で緊張と疲れとがピークに達していたのでしょう。

自己紹介のあと、私の友人がスナップを撮ってくれ、食事をしながら、現地の給食の話をお聞きしたら、ダニロさんが「アア、今日は満腹だ！今迄、お腹がすいていた～」と言って、大きなお腹をさすったので皆で大笑いをしました。（現地のお話は聞けなかった）。

事務局から預かっている、会からのお土産のサッカーボール6個、空気入れ6個を渡し大変喜ばれました。本来は交流会で渡すのが良いのですが、荷物の整理を希望していましたので、我が家で渡しました。

主人が、床の間より日本刀をダニロさんに見せると、「サムライ・サムライ」と、喜んでポーズを決めて、皆でお互いに撮影会となりました。

翌27日早朝、東京駅より、半日都内観光コース

に案内して、東京タワー、皇居前広場、浅草の浅草寺界隈を散策しました。一番楽しそうで目がキラキラしていたのは東京タワーで、その高さが驚異のようでした。浅草で、3人を100円ショップにお連れしましたが、日本がどう映ったのでしょうか？

その後、台東区生涯学習センターでの交流会へ…。現地の奥地では、未就学児童がいる現実と、パソコンを必要として高度な教育を望むSCMSIが、チボリ国際里親の会の現状をどう捉えて、お帰りになったのでしょうか？

こんな疑問を抱きつつ、私のホストファミリーの役目は、終わりました。3人の方が、病気、トラブルに巻き込まれることなどなく、無事に帰路につかれたのは何よりでした。



我が家の前で整列!!

30年の歴史の推移に遭遇して

正垣恵津子（兵庫県）

5月24日に開かれた合同会議で、急遽通訳を担当させていただきました。これまでチボリニュースやホームページ以外で支援活動の様子を知ることが殆どなかったのですが、今回は会長をはじめとするJOFPAと、来日したSCMSIの間に介在する立場となり、一賛助会員として、支援の現状や問題点を共有する良い機会となりました。

合同会議では「SCMSIの経済的自立経営を促すJOFPA」と「支援継続を求めるSCMSI」という、相反する構図が浮き彫りになりました。両者間で話し合いが尽くされましたが、満足のゆく結論を引き出すことのないまま閉会に至りました。SCMSIからは自立への強い意志が感じられず、あくまでも支援ありきのスタンスを変えることが

なかったのは残念です。

現在、多くの途上国でODA活動やNGOによるあらゆる支援が行なわれていますが、いずれも様々な問題を抱えています。プロジェクトを遂行するためには、案件の審査、モニタリング、事後評価が不可欠であり、それぞれが的確になされてこそ着実な成果が得られると言われますが、現地の状況を把握しつつ支援を進めるのは容易ではありません。自立に向けた姿がまだ見えてこないチボリの方々に前にして、支援の取り組み方やフォローの難しさを改めて感じざるを得ませんでした。

当日夜、開催された交流会では里親が次々とガンダムさんのもて来られ、里子のことを我が子のように話されている姿が印象的でした。30年にわたりチボリの発展を支えてきた会員一人ひとりの善意が一日も早く「チボリ主導の自立」という大きな実を結ぶことを願ってやみません。

美しきアジアのしごと 染織りと工芸展

7月21日より26日まで、横浜高島屋で開催された「染織りと工芸展」で、チボリ民芸品を展示販売しました。奈良の会員・安井博子さんに製作していただいた夏向け帽子とポシットが華やかさをあたえてくれた会場で、10時から夜8時までの長時間6日間を、13名のボランティアが2交代で担当。猛暑の中ほんとうにお疲れ様でした。

ボランティアのおひとり向山さんから会場の様子を報告していただきます。（事務局）



展示会場の様子

JOFPAがデパートに出店したのは初めてです。事前勉強会をし、値段を決め、値札を付け、商品の陳列のレイアウトと、それなりに準備はしましたが、デパート感覚との差にかなり驚かされました。まず、値段があまり安くてもよくないようです。ある程度の金額で、希少価値を出すほうがいいみたいでした。ですから、ティナラク織の良さを知っている人からは、「おたく、安いわね」と驚かれました。

ビーズのアクセサリも「好みだけど、ちょっとねえ」とおっしゃるお客様もいらっしゃいました。高島屋の催事場担当の方からは、「一度付けた値段は簡単に値上げできないよ。お客様はちゃんと覚えているからね」と言われました。高めに設定すればよかったと後悔しました。年配の方が多かったので、値段がはっきりと分かる工夫も必要でした。実際にやってみないと、わからないことは沢山ありました。

ティナラク織のコースターを額に入れて、玄関やトイレに飾りたいからと、数枚、購入される方もいらっしゃり、「私たちがティナラク織を額に入れて、

販売してもいいかも」と、思いました。ティナラク織布の購入希望者も何名かいらっしゃいました。自分でベストを作るとか、夏のまくらカバーにいいとおっしゃる方もいて、いろいろな人の話を聞くことは、とても参考になりました。

朝礼で、「皆さんも、高島屋の顔です。いつも笑顔でお客様に接して下さい」と言われ、緊張もした数日間でしたが、とてもいい経験をさせていただきました。

こぼれ話

高島屋の担当者の方から、「ティナラク織 名刺入れを使ってみて、最初、少し硬いかなあと思ったけれど、使ってみたらなじんできてとても使い心地が良いので、もう5個買えますか？」と電話をいただき、早速送りました。高島屋デパートの客層を考慮すると、もっと高級感を出すべきだったと反省していると伝えましたら、「今回は初めてだからそれは経験であり、次のステップです」とも励まされました。（事務局 関根）

現在、フィリピンにおいては、富裕層と貧困層の格差がますます広がっているようです。そしてその犠牲になるのはいつも幼い子どもたちだと思います。

このような子どもたちの将来がとても気になります。チボリの子どもたちも、私にとっては、深いつながりがあるような気がしてなりません。私は生涯をかけて、このような子どもたちを支援していきたいと思っています。少しでも日本の多くの人たちが、

このようなフィリピンの現実を知って頂きたいと思い、私は、生きる希望を与えてくれる映画「マリアのへそ」の自主上映（船橋自主上映実行委員会・代表弓場）を企画しています。

DVDもお求めになれます。DVDの売上げの一部は、販売会社である（株）T&Kのご厚意で「チボリ国際里親の会」に支援金として寄付させていただきます。

ご希望の方は事務局・電話：03-3835-1545まで。

事務局便り

■悲しいお知らせ

香川県の大藪隆支部長が自宅療養中にご逝去されたとのお知らせを受けました。永年のご尽力に心より感謝申し上げますとともに、心よりお悔やみを申し上げます。

大藪支部長のご遺志を継がれ、お嬢様の友利子さんがこのたびチボリの子どもの里親を引き受けて下さいました。



■文京ボランティア・市民活動まつり2010

日時：11月20日（土）10時～4時

場所：東京都文京区本郷4-15-14

文京区民センター4階

■卒業研修旅行報告

4月に1泊2日の卒業研修旅行が行われました。参加した子どもたちからの感想文は次号に掲載予定です。

■健康医療プロジェクト

会計報告と活動報告書が届きました。詳細は次号に掲載予定です。

■事務局スタッフ募集

就業時間：週2～3日 10時～4時（休憩45分）

賃金形態：時間給制 800円から

資格等：パソコン操作 英検2級以上

事務職経験者なお可

業務内容：事務局全般（パートタイム）

詳細は03-3835-1545まで。

JOFPAへのご支援・ご協力ありがとうございます 敬称略（2010年4月21日～7月31日）

お名前掲載を希望されない方は、お手数ですがその旨事務局までご連絡をお願いいたします。

■新入会員（<>内はご紹介者又は入会のきっかけ）

山口県・夏川範子<山田伊津子>、山口県・伊藤和子<山田伊津子>、

大阪府・國藤アキ子<岩井佐多子>、香川県・大藪友利子<大藪隆・節子>、香川県・西朋美<両親>

■ご寄付者（ご寄付・随時ご協力の賛助費についてお名前を紹介させていただきます）

秋本光代、安藤美知子、石渡浩子、植木久美子、上山幸子、江波戸勲、大須賀育代、岡村鈴江、大藪隆・節子、奥田高三、小野洋治・りゅう子、北浦千夏、坂詰美代子、佐藤静子、篠原寿美子、正垣恵津子、菅沼いずみ、杉山幸子、鈴木静代、高井和子、武田一枝、中島利枝子、長崎すみ子、波多江寿子、反納新一、東文恵、府中真弓、古井美由紀、西川雄子、増田文江、増山富美子、松本満江、南昌宏、三沢ひろこ、森崎純子、矢野憲作、山内末雄、北九州の匿名の方

■切手（未使用、使用済含む）その他

（紙面の都合で11月号に掲載します。）

■ボランティア（会報、バザー、翻訳、その他）

相田陽子、石渡浩子、飯塚誠一、安藤美知子、大坂照代、恩田和美、大西エベリン、岡澤麻里、佐伯三郎、坂詰美代子、正垣恵津子、高井みどり、武田とよ子、富江崇、永井久美子、長島信夫、長崎すみ子、人見ゆうや、増田憲治、前田佳代子、前田恵、南信次、向山由里子、安井博子、柳澤裕美、山内末雄、山崎登美子、吉永洋子、渡辺洋子

■編集後記

編集に携わることになりました。未熟で伝えきれていないと思います。皆さまのご意見をお寄せください。

（大須賀）



サラマッ!
チボリ語で
ありがとうの意